

011109	その他 の非鉄 金属製 造業																					
0111	非鉄金 属製造 業																					
011201	洋食 器・刃 物製造 業																	1				1
011202	ねじ等 製造業																					
011203	金属プ レス製 品製造 業																					
011204	めっき 業																		1			1
011209	その他 の金属 製品製 造業		2		2		2		1	4			1			3		2	3	1		21
0112	金属製 品製造 業		2		2		2		1	4			1			3		3	4	1		23
011301	機械 (精密 機械を 除く)		1		3		2	1	2	1		1	1	2	2	1	1		1			19

0201																					
石炭鉱業																					
020201																					
採石業																					
020202																					
砂利採取業																					
020209																					
その他の土石採取業																					
0202																					
土石採取業																					
020301																					
金属鉱業																					
020302																					
石油等鉱業																					
020309																					
その他の鉱業 -その他																					
0203																					
その他の鉱業																					
02 鉱業																					
030101																					
水力発電所等建設工事業																		1		1	
030102																					
トンネル建設工事業		1		2		1	3	1	1	3			2		1	1	1	2	3	1	23

030103	地下鉄 建設工 事業																					
030104	鉄道軌 道建設 工事業	1					1									2				1	5	
030105	橋梁建 設工事 業	1	6		1	1		6	1	1	1	1	1	1	2		2	2	1		28	
030106	道路建 設工事 業	2	2		2	1		4	1		1		2	1			1		2	2	21	
030107	河川土 木工事 業								1								1	1			3	
030108	砂防工 事業													1								1
030109	土地整 理土木 工事業							1		1						1	1					4
030110	上下水 道工事 業																					
030111	港湾海 岸工事 業																					
030199	その他 の土木 工事業	3	1		1	2	5	5	4	2	5	2	4	1	3	4	2	4	2	3	7	60

0301 土木工 事業			8		11		5	7	8	17	9	4	6	4	7	5	6	6	6	9	8	9	11	146
030201 鉄骨・ 鉄筋コ ンク リート 造家屋 建築工 事業			13		13		32	25	26	24	13	12	12	12	14	21	18	15	18	17	22	11	13	331
030202 木造家 屋建築 工事業							3	2					1	1			2	1			1	2		13
030203 建築設 備工事 業			1		3		2	4	4		4	6	1	3	1	4	3	3	3	4	4	2	6	58
030209 その他 の建築 工事業			6		7		5	6	13	10	4	9	5	9	6	6	3	2	8	10	9	8	6	132
0302 建築工 事業			20		23		42	37	43	34	21	27	19	25	21	31	26	21	29	31	36	23	25	534
030301 電気通 信工事 業			24		25		18	32	23	23	29	25	21	21	14	18	23	19	14	16	21	18	29	413
030302 機械器 具設置 工事業			3		2		2	2	5		5	1	2	3	1		1	2	1		9	5	1	45
030309 その他 の建設 業－そ の他			5		10		4	5	3	6	10	5	7	4	5	7	10	8	9	3	8	3	5	117

0303 その他の建設業			32		37			24	39	31	29	44	31	30	28	20	25	34	29	24	19	38	26	35	575
03 建設業			60		71			71	83	82	80	74	62	55	57	48	61	66	56	59	59	82	58	71	1,255
040101 鉄道・軌道業														2					1					1	4
040102 水運業																									
040103 航空業					1			1	1																3
0401 鉄道・軌道・水運・航空業					1			1	1					2					1					1	7
040201 ハイヤー・タクシー業																									
040202 バス業																			1						1
040209 その他の道路旅客運送業																									
0402 道路旅客運送業																			1						1
040301 一般貨物自動車運送業					2			1	2	2	2	2	3	2	1	1	2	2	5	2	2	1	5	4	39

2012	11	20 ～ 21	工事現場から高所作業車で会社に戻るため高速道路を走行中、雨で路面が濡れていたため、後輪がスリップして左側のガードレールに衝突後、横転し、被災者（運転手）が死亡した。	30301	17	1～ 9
2012	4	2 ～ 3	被災者は立体横断施設施工現場にて、横断デッキ下部の電気ケーブルを高所作業車を用いて手工具で寄せる作業を行っていたところ、横断デッキ（桁下）と高所作業車のバケットとの間に挟まれた。消防のレスキューが救出し、救急搬送したものの死亡が確認された。	30106	7	1～ 9
2012	9	15 ～ 16	光ケーブル引き込み作業において、約8度の傾斜の道路で登り方向に対し前進で高所作業車を配置した。サイドブレーキを引き、全輪に車止めをし、高所作業車の後部の操作盤により後方のアウトリガーを張り出していたところ、後部車輪が浮いた瞬間に高所作業車が後方へ滑り出した。アウトリガーを操作するも止まらず、はさまれる間際まで退避しなかった被災者は、高所作業車と後方の電柱との間に挟まれた。	30301	7	50 ～ 99
2012	3	16 ～ 17	作業床の高さが約10mの高所作業車を用いて公園の高木の剪定作業を行っている際、当該高所作業車が被災者を乗せたまま転倒した。	60101	2	1～ 9
2012	3	16 ～ 17	作業床の高さが約11mの高所作業車を用いて公園の高木の剪定作業を行っている際、当該高所作業車が被災者を乗せたまま転倒した。	60101	2	1～ 9
2012	2	5 ～ 6	道路交通信号の改修工事が終了し、高所作業車を運転して事業場倉庫へ戻るため県道を走行中、道路脇の田に高所作業車ごと転落した。	30301	17	1～ 9
2012	11	11 ～ 12	伐採業務において、雑木林内でクローラ式自走式高所作業車（最大高さ12.1m）を使用して高さ10m以上の位置で大木の枝切り作業中、高所作業車がブームを伸ばした状態で転倒し、バスケットに乗っていた被災者が地面に投げ出された。	30199	2	1～ 9
2012	7	11 ～ 12	工場の溶解室内で高所作業車を用いた天井ダクトの取り付け作業において、高所作業車のかごの手すり部分に足をかけてダクト上部の固定作業を行っていたところ、約10m下のコンクリート床面に墜落し、死亡した。	30203	1	1～ 9
2012	7	19 ～ 20	被災者は高所作業車を操作し、ケーブルテレビ線の引き込み作業を単独で行っていた。引き込み作業の終了後、当該高所作業車のアウトリガを収納する作業をしていたところ、高所作業車が突然動き出し、約30m逸走した後、道路脇の2階建て家屋に激突した。この時、被災者の上半身は運転席に入っていたため、運転席ドアが家屋にぶつかったことにより、運転席ドアと運転席に上半身を挟まれる形で被災した。	110101	7	1～ 9
2012	2	8 ～ 9	被災者は、枝切り作業のため傾斜面に高所作業車（積載荷重：150kg、作業床の最高高さ：9.9m）及び積載型トラッククレーンを停車させ、作業準備のために高所作業車の後方側アウトリガーを張り出した際、当該作業車が斜面を下る方向に突然動き出し、トラッククレーンとの間に挟まれた。	10909	7	1～ 9
2013	8	16 ～ 17	被災者は、5階建て建物の3階スラブ上で高所作業車（作業床が垂直方向にのみ上昇・下降するもの。）に乗り、高さ約6メートルの場所にある鉄骨の錆止め塗装等の作業に従事していたが、作業場所を移動する際、高所作業車の作業床を一旦降下させるべきところ、操作を誤り、作業床を上昇させてしまい、頭上にあつた鉄骨梁と高所作業車の手摺との間に頸部を挟まれた。	30201	7	1～ 9
2013	2	6 ～ 7	作業終了後、リース会社まで高所作業車（作業台高さ19.5m）を上席者が運転して返却しに行く途中、路上脇に停車していた10トントラックに激突、助手席に座っていた労働者が死亡した。	30309	17	30 ～ 49

2013	1	16 ～ 17	高所作業車（自走式バケットクローラ）を使用して、高さ約10mの箇所で作業員2名（うち1名はオペレーター）が外壁の塗装補修を行っていたところ、高所作業車が転倒した。その際、高所作業車の作業床であるバケットが踏切の鉄柱に激突した。塗装作業を行っていた1名は自力で脱出したが、もう1名のオペレーターはバケットの手すりと鉄柱に挟まれ、救出後搬送先の病院で死亡が確認された。	170209	2	100 ～ 299
2013	5	10 ～ 11	電柱の先端付近にある金具の点検補修のために、作業員2人で道路上（坂道）に高所作業車を設置する段取り作業を行っていたところ、バケットを動かすことができないといったトラブルが生じたが、それを解消するために、いろいろ試みていた最中に、同車両が逸走した。被災者はそれを止めようとして、同車両の後部において支えようとしたが、側溝に足を取られ仰向けに転倒し、アウトリガーと側溝の間に腹部を挟まれ死亡した。	30301	7	50 ～ 99
2013	4	16 ～ 17	被災者は、光ケーブルの接続作業を行うため、高所作業車を空地に停めて作業箇所である電柱の確認をしようとしたところ、高所作業車が被災者に向かって逸走してきたため、手で止めようとしたが、高所作業車を止めきれずに轢かれた。尚、空地は前の道路に向かって約15度の傾斜があり、道路は約9度の傾斜があった。	30301	7	1～ 9
2014	11	14 ～ 15	被災者が高所作業車を使用し、屋根垂木の釘打ちによる固定作業中、同僚によって高所作業車の作業床から上半身を前のめりにし胸腹部で操作盤を押しつけるようにして、肩と背中を建物の鉄骨構造材に挟まれ、出血し、意識のない状態の被災者が発見された。	30201	7	1～ 9
2014	9	13 ～ 14	電線の引き込み工事中、被災者が高所作業車の運転席のドアを開け、高所作業車の外から上半身のみ運転席に入り、エンジンをかけたところ、高所作業車が前方に動き出し、高所作業車のドアが電柱に衝突。衝撃で閉じたドアと高所作業車の間に挟まれた。	30301	7	1～ 9
2014	5	9 ～ 10	信号機の電球取替え作業中、高所作業車のかご内で作業を行っていたところ、走行していたウイングボデーのトラックが高所作業車のブームに衝突し、衝撃で被災者がかごから外に投げ出され、約4m下の道路上に墜落した。	30301	1	1～ 9
2014	5	13 ～ 14	高所作業車で天井クレーンのホイストの走行車輪4個の交換作業中、被災者は、作業の補助をする為、高所作業車座席上の天板上に上がり、上部レバブロックを緩めようと手を伸ばしたところ、足を踏み外し、約2.3m下のコンクリート床上に落下し、頭部を負傷し、死亡した。	11301	1	1～ 9
2014	5	16 ～ 17	高所作業車を使用し、鉄骨貫通部にロックウールを詰める作業中、被災者が高所作業車の手すり部分と、躯体鉄骨に挟まれているのが発見された。	30201	7	10 ～ 29
2014	3	10 ～ 11	工場建設現場にて、内装の配線作業を行っていた被災者は、高所作業車の手すり部と上部配管ラックに首、胸部付近を挟まれた。	30201	7	10 ～ 29
2014	3	9 ～ 10	高所作業車のバスケットに乗り、バスケット内の作業装置を操作し、ブームの伸縮等の操作を行っていたところ、作業装置の運転を誤り、バスケットの手すり天井の梁との間に、頸部を挟み、死亡した。	30209	7	1～ 9
2014	2	11 ～ 12	高所作業車のアウトリガーを格納中、被災者はアウトリガーと、車体との間に頭部を挟まれた。	30301	7	30 ～ 49
2015	4	0 ～ 1	樹高約17メートルのクスノキの剪定作業中、高所作業車の作業床が届かない頂部付近を剪定するため、当該樹木の高さ約12メートルの箇所に作業床を横付けして樹木に乗り移り剪定作業を行ったが、当該作業終了後、樹木から作業床に戻る際、高所作業車の作業床に足を掛け乗り移るときに作業床が大きく揺れ、その反動で11.6メートル下の歩道上に墜落し死亡したもの。	60101	1	1～ 9

2015	3	15 ～ 16	ロックシェッドの内部にある照明装置にかかる改修工事において、高所作業車を運転していた被災者が、当該高所作業車を前進させるためにアウトリガーを収納したところ、車が後退した。被災者は動き出した車を止めようとして並走したが、その間に車に激突され、転倒した。	30301	6	1～ 9
2015	3	18 ～ 19	被災者は、工事現場からの帰りに翌日使用予定の高所作業車をリース会社に寄って借り、これを運転して会社へ戻るため運転中、高さ制限のある陸橋下を走行していた際、作業車上部がボックスカルバートに激突し、その反動でハンドルに胸部を強打し内臓損傷等を負った。事故後入院加療中であったが4月19日に死亡した。	30301	17	10 ～ 29
2015	9	11 ～ 12	引越作業において、ビル4階の窓から、高所作業車を使って荷の段ボール箱（中身は書類など）を地上に搬出していた。バケットの中央部に乗っていた被災者は、19個の段ボール箱と共に、地上へ下りる操作を始めた。ビル3階窓付近の高さ6メートル10センチあたりまでバケットを下ろしたところ、荷崩れを起こし、被災者は荷と共にバケットから地上へ墜落したものの。	40301	1	10 ～ 29
2015	9	9 ～ 10	国道の陸橋の調査業務において、被災者は、高所作業車の作業床の上に乗り、橋梁の（コンクリート）床板の（打音）検査を行い、それが終了したため、隣接区間に高所作業車を移動させようとした。そして、被災者が、高所作業車を操作したところ、被災者の頸部が高所作業車の作業床の手すりと橋梁の床板との間に挟まれたため、病院に搬送したが、（4日後の）9月19日（午後1時45分）に死亡した。	170209	7	1～ 9
2016	8	3 ～ 4	高速のトンネル内で片側2車線のうち左側車線を規制して、高所作業車の作業台に3名が乗車して、作業を行っていたところ、右側車線を走行中の3トントラックが高所作業車作業台に衝突し、その反動で作業員2名が道路上に墜落した（墜落高さ約4メートル）。	30309	1	10 ～ 29
2016	3	10 ～ 11	被災者は本件事業場の車両置場（完成品置場）において、高所作業車（作業床の高さ27メートル、積載荷重2000キログラム）の点検のため、作業床に乗り、ブームを起伏（80度）してブームの伸縮状況を確認していたところ、ブームを最大限に伸ばした高さ27メートルから地上に墜落し、死亡した。	80409	1	1～ 9
2016	2	12 ～ 13	電柱建替工事の応援に行くため、事業場から高所作業車を1人で運転し、国道を走行していたところ、吹雪のため減速運転していた大型トラック（箱車）に追突し、同日死亡した。	30301	17	10 ～ 29
2016	1	15 ～ 16	公園内樹木伐木作業のため、高所作業車の搬器を昇降させた際、当該機械が転倒し、搬器に搭乗していた労働者2名が搬器外に投げ出された。	60101	2	1～ 9
2017	12	14 ～ 15	高所作業車（トラック式スーパーデッキ）2台を使用して、隧道補修のための帯鋼板設置作業を行っていた際、作業箇所変更のため、高所作業車の運転者である被災者が、サイドブレーキをかけ、左後輪に車輪止めを置き、アウトリガーを操作していたが、アウトリガーのジャッキを上げたところ、高所作業車が逸走し、もう一台の高所作業車との間に被災者が挟まれた。	30102	7	1～ 9
2017	7	16 ～ 17	コンテナ船内で高所作業車を用いて塗装作業中の作業員が、高所作業車ごと5m下のホールド内に転落し、被災した。	11501	1	10 ～ 29
2017	6	12 ～ 13	被災者とオペレーターの2名で高所作業車を使用し、ホテル南面の外壁の修繕をしていたところ、搬器の底部が外壁と接触して動かなくなった。そのため、被災者が搬器の外に出て接触箇所を確認しようとしたところ、バランスを崩し約20メートルの高さから墜落した。	30209	1	1～ 9
2017	6	8 ～	飼料バラ出荷場において、天井に仮付された安全柵の本溶接を行うため、被災者含めて3名が、各人それぞれ高所作業車に乗って3箇所に分かれて作業を行っていた。作業員Aが作業の途中、横のエリアを担当していた被災者に作業を行っている様子が無かったため、不審に思って近づいたところ、安全柵と高所作業車のバケットの間に挟まれてい	30309	7	30 ～

		9	る被災者を発見、心肺停止で病院に搬送されたが、同日死亡した。			49
2017	2	16 ～ 17	被災者は、高所作業車による作業終了後、高所作業車に取り付けられたタラップを使用して地上に降りる際に、高さ1.2m付近のタラップを踏み外し、コンクリート製地面に転落し、頭を地面に強打した。	30309	1	1～ 9
2018	12	18 ～ 19	台風で破損した倉庫屋根の端部に取り付けられた部材交換作業終了後、同僚とともに屋根上から高所作業車のバスケット部に乗り移り、被災者が運転し地上に移動しようとしたところ、高所作業車が動かなくなり、被災者が状況確認のため、バスケット部から屋根上に移動しようとしたところ、突然、高所作業車が動き出して2.4メートル下の地面に墜落した。	30201	1	1～ 9
2018	10	12 ～ 13	つり足場の撤去作業に使用した橋梁点検車を運転して林道を走行中、緩いカーブで車両が横転し、ガードレールに衝突したものの。	30199	17	1～ 9
2018	9	14 ～ 15	被災者は、地上約8メートルの高所作業車の作業床で鉄骨ボルトの本締め作業を1名で行っていた。休憩を終えて現場に戻った塗装工が、高所作業車と鉄骨の間に頸部がはさまっている被災者を発見した。被災者は、すぐに救出され、ドクターヘリで病院に搬送されたが、翌日の入院中の病院で低酸素脳症により死亡が確認された。	30201	7	10 ～ 29
2019	10	10 ～ 12	新造船の船内車両甲板を塗装する前工程として、車両甲板天井の梁部を研磨するため、被災者が単独で高所作業車の作業床に乗り、作業床上の操作盤を操作していたところ、操作盤と車両甲板の天井の梁との間に胴体がはさまれ、死亡したものの。	11501	7	1～ 9
2019	9	14 ～ 16	市道で橋梁の点検作業に使用する高所作業車が坂道を逸走し、同作業のため交通整理にあっていた警備員に衝突したものである。	170201	6	30 ～ 49
2019	4	20 ～ 22	建築現場駐車場において、高所作業車を使用してケーブルラックを設置するための準備作業を行っていたところ、当該作業車が転倒し、被災したものの。	30201	1	1～ 9
2019	2	10 ～ 12	発注見込みの伐採作業の打ち合わせ、現地確認のため、被災者は自らが運転していた高所作業車を停車し、車両から降りたところ、車両が後退しこれを止めようとしたが、車両と電柱の間に挟まれ死亡した。付近の道路の勾配は0度から5度だった。サイドブレーキは引いておらず、輪止めは使用していなかった。	30301	17	10 ～ 29
2019	2	8 ～ 10	高速道路に設置してあるプルボックス内の光ファイバーケーブルの接続切替作業を行っていた。作業者と作業指揮者である被災者の2名で高所作業車の作業床に搭乗し、作業者がプルボックス内のケーブル切替作業を行っている時に、高所作業車の作業床が上昇し、被災者が高さ4.875メートルの橋桁下部とバケットの間に挟まれ負傷した。	30301	7	100 ～ 299
2020	9	14 ～ 16	設備改修工事において、物流センター倉庫天井への墨出し作業を高所作業車の搬器上で一人で行っていた被災者は、約5m下の床面に転落し頭がい骨骨折、脊髄損傷により死亡した。ヘルメット、墜落制止用器具は着用していた。	30203	1	1～ 9
2020	9	14 ～ 16	高所作業車にて塗装作業中、高所作業車と鉄骨の間に頭部を挟まれたものの。	40301	7	10 ～ 29
2020	7	20 ～ 22	工場火災により生じた壁のすす等の除去を請け負った事業場の労働者が高所作業車を使用して作業を行っていたところ、突然被災者の作業箇所付近に設置された天井のスプリンクラーが作動した。異変に気付いた同僚がスプリンクラーを停止させ、高所作業車のバケットを地上から操作し、降ろしたが乗っていた被災者はすでに意識が無く、搬送	30309	3	10 ～ 29

			された病院で死亡が確認された。			
2020	6	10 ～ 12	住宅の修繕作業終了後、傾斜地に設置した高所作業車のアウトリガーの格納作業中、車両後部の操作装置を操作しアウトリガーの格納を終えたところ、車両が後方に動きだし、被災者を押したまま約15メートル自走し停車した際、被災者が車両の下敷きとなったもの。	30209	7	1～ 9
2020	5	14 ～ 16	工区延長4780mのずい道建設工事の切羽後方において、ずい道の延伸に伴い、工事用照明を追加する作業が行われていた。作業は単独で、被災者は使用していた高所作業車のバケットとトンネルの天端の間にはさまれた状態で発見された。切羽は坑口から3679m。作業が行われていたのは切羽の後方42mの付近であった。	30102	7	10 ～ 29
2020	1	10 ～ 12	ずい道の坑内にて防水シートを貼る作業を、高所作業車で行ってた。ずい道の天端部から、次の箇所に作業床の位置を移動するため、作業床を降下しようと、起伏の操作レバーを操作したところ、誤って同レバーを操作してしまった。これにより、高所作業車のブームが起き上がったことで作業床が上昇し、被災者はずい道の天端部のコンクリート面と、高所作業車の作業床の手すりの間に頭部を挟まれたもの。	30102	7	1～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_02.html